

# **IATF 16949 内部監査|8.7.1.7 不適合製品の廃棄**

**How do I Audit the production process disposition of nonconforming product**

## 【内部監査で見つかった問題点】

不適合製品の廃棄に関して、組織が廃棄前に製品を使用不可の状態にしていなかったことです。これはIATF16949:2016の8.7.1.7条「不適合製品の廃棄」に違反しています。この条文では、組織は手直しや修理ができない不適合製品の廃棄に関する文書化されたプロセスを持たなければならず、要求事項を満たさない製品に対して、スクラップされる製品が廃棄前に使用不可の状態にされていることを検証しなければならないとされています。

## 【内部監査で見つかった問題点の改善点】

組織は廃棄物処理業者（サービスプロバイダ）と連携し、契約に製品を使用不可の状態にすることを盛り込むべきです。また、その処理が確実に行われていることを定期的に検証する必要があります。

## 【ISO 19011の観点からの問題点】

監査中に不適合を解決することは禁止されているため、監査員はこのルールを遵守する必要があります

## 【ISO 19011の観点からの改善点】

監査員はIATF 16949の制裁解釈やよくある質問にも精通している必要があります

FAQ11によれば、製品を使用不可の状態にするための措置は、製造エリアで行う必要はなく、組織の管理下で行われるべきです。これには、廃棄物置き場や外部委託されたサービスが含まれます。使用不可の状態にするためのダメージの程度は、修理不可能な状態であることが求められており、単なる赤ペイントでは不十分です。

使用不可の状態の判断にはバラツキがあるため、金属部品などの場合、物理的なダメージを与えることが絶対条件ではなく、管理上（契約を含む）廃棄物処理業者の確実な処理が確認されていれば問題ないと判断されることもあります。

## 箇条8.7.1.7 不適合製品の廃棄

- ☑組織は、手直し又は修理できない不適合製品の廃棄に関する**文書化したプロセス**をもたなければならない。
- ☑要求事項を満たさない製品に対して、組織は、スクラップされる製品が廃棄の前に使用不可の状態にされていることを検証しなければならない。
- ☑組織は、事前の顧客承認なしで、不適合製品をサービス又は他の使用に流用してはならない。

### 1. 8.7.1と8.7.1.7の関係。



## 箇条8.7.1.7 不適合製品の廃棄

2. 委託先による廃棄後の転売及び悪用を防止することが目的。

### 3. FAQ11

- 最終廃棄に先立って使用不可能になる限り、それを製造エリアで行う必要はない。 ➡ 組織の管理下。（廃棄物置き場、或いは使用不可能な状態にするサービスを外部委託する。）
- どの程度のダメージを与える？ ➡ 修理不可能な状態。（赤ペイント程度ではNG）

『使用不可』の状態の判断（見解）は、審査の場面でもバラツキが生じているのが実態。

金属部品などの場合、必ずしも物理的ダメージを与えることが絶対ではなく、例えば、管理上（契約含め）、廃棄物処理業者の確実な処理が確認されていれば問題ないと判断する。

# 内部監査-登場人物



Confidential

ミツイ精密株式会社



**Paul : 進行**



**監査員**



**Area Supervisor**

# 内部監査-現場会話

- ポール** : このビデオでは、組織の製造プロセスを監査することに焦点を当てています。
- ポール** : このビデオでは、特に不適合製品がどのように廃棄されるかに焦点を当てており、監査員が関連するエリア監督者に質問しています。
- ポール** : このビデオを見て、監査員がこの活動を効果的に監査しているかどうかを判断してください。
- 監査員** : 不適合製品の処理方法を説明していただけませんか？
- エリア監督者** : はい、先ほどお見せしたように、機械で不適合製品がここに持ってこられ、このエリアの適切な廃棄コンテナに入れられます。なぜなら、一部の素材を再研削して再利用できるからです。
- 監査員** : では、再研削が許される割合をどのようにして知るのですか？
- エリア監督者** : 私たちの主要な顧客は、自動車製品に10%の再研削材を使用することを許可しています。
- 監査員** : 了解しました。それについて確認しておきます。
- エリア監督者** : はい。
- 監査員** : では、不適合な組立製品はどうですか？
- エリア監督者** : はい、これがその例です。これにはインサートが成型されています。ですので、これを再研削することはできません。それで、これはこのピンに入れられ、週に一度、廃棄物業者がそれを持ち去り、代わりに処分してくれます。なぜなら、メチレンが含まれているため、再研削することはできないからです。
- 監査員** : そうですね。リサイクル会社に渡す前に、製品を使用不能にしていますよね。
- エリア監督者** : いいえ、いいえ、それは私たちが作った販売可能な製品ですが、インサートに問題があることがわかります。それで、それは廃棄コンテナに入れられ、廃棄物業者によって持ち去られます。
- 監査員** : 分かりました。では、IATF 16949の8.7.1.7による不適合製品の処分が、組織がスクラップにする製品が使用不能にされる前に検証することを求めているので、これを不適合として指摘することになります。



# 内部監査-現場会話

エリア監督者

: なるほど、それは自動車供給チェーンに戻らないようにするための理にかなったことですね。私ができることは、廃棄物業者に連絡して、今日彼らに納品するものがあるので、製品を破壊するためのハンマーを持ってきてもらうことです。契約にそれを書き込むことができますし、製品を破壊することを彼らがやってくれます。金曜日までにその情報を提供できたら、それをクリアしてもらえますか？

監査員

: はい。

エリア監督者

: それは素晴らしいことです。あなたがコーヒブレイクを取るときに、私は彼らに電話をかけて、製品を破壊することを確認するメールをもらいます。

監査員

: ありがとうございます。

## 内部監査-現場会話（まとめ）

ポール

: それでは、良い点をまとめましょう。監査員は現場に立ち、不適合製品がどのように廃棄されるかのプロセスを見ています。

ポール

: 最初にリリースされたIATF 16949の要件に対して、監査員は正しかったでしょう。

ポール

: しかし、監査員はIATF 16949の制裁解釈とよくある質問にも精通しているべきです。

ポール

: この場合、関連するよくある質問があります。

ポール

: 質問3(補足)は、組織はサービスプロバイダを使用して製品を使用不能にすることができますか？

ポール

: IATFのその質問に対する回答は、製品を使用不能にするプロセスをサービスプロバイダに委託することは許されています。

ポール

: サービスプロバイダが使用される場合、組織はサプライヤーが製品を使用不能にする方法を承認し、定期的に検証する必要があります。

ポール

: また、監査員は監査中に不適合を解決できると述べていたことが間違いでした。

ポール

: 特に、第三者監査では、監査中に不適合を解決することは禁止されています。



## Key Learning Point

監査員は、ISO9001、IATF16949、顧客固有要件、制裁解釈、およびFQAの要件に精通する必要があります。

## Key Learning Point

監査中に不適合を解決することはできず、監査報告書に不適合が記載される必要があります。

## 質問3(補足)

IATF 16949に関連するよくある質問（FAQ）の1つで、「組織はサービスプロバイダを使用して製品を使用不能にすることができますか？」という質問を指しています。これは、組織が不適合製品の廃棄に関するプロセスを外部のサービスプロバイダに委託しても良いかどうかに関する質問です。

IATF（International Automotive Task Force）の回答は、「はい、製品を使用不能にするプロセスをサービスプロバイダに委託することは許容されます」となっています。ただし、サービスプロバイダを利用する場合、組織はそのサービスプロバイダがどのように製品を使用不能にしているかを承認し、定期的に検証する必要があります。